

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓蟄会
事業所名	グループホームお城下
所在地	松山市千舟町4丁目4番5 西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成21年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 10月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームアプローチ、報告、連絡、相談をす早く行い、ご利用者様に要求や、変化があればできるだけ早く対応すること。また、そのためにチームの全員が、気持ちよく働けるよう、コミュニケーションをとること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じビル内にホームと同法人の運営する認知症専門医院があり、連携体制が整っている。看取りの経験が多いため職員の力量は高く、利用者及び家族は安心している。作成した介護計画を、個別援助目標や援助内容へと展開しながらケアに活かしている。明るく誠実な管理者を中心に、個性豊かな職員が、年齢差はあっても尊重し合いながら仲良く助け合ってケアにあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームお城下
(ユニット名)	つる
記入者(管理者)	
氏名	小椋浩美
評価完了日	H21 年 10 月4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入所系でありながら在宅の考え方で支援の継続性について随時話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 管理者の思いがこもった5つの理念は利用者や家族にも分かりやすく、職員は日々のケアを通して理念の実践に努めている。職員は、利用者が今まで築き上げた生活が心地良く自由にできるよう見守り支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 番町公民会活動への参加や、地域のお店へ出かけたり、とできるだけの交流に努めているが地域的に地元住人がどこにいるのかわからず苦心している</p> <p>(外部評価) 町内会に加入している。秋祭りでは子ども神輿がホームの中まで来てくれ、子どもたちとの交流を利用者も楽しみにしている。家族の協力を得て松山祭りの踊りを一緒に見学したり、公民館や小学校の催しにも参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域的に難しい点はあるができる範囲で交流を試みている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議と行事との組み合わせで参加の促進を図り、ホームの活動を目の当たりにしていただき、サービスについてのご意見も出している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、町内会長、民生委員、市担当者などの出席を得て、学習会等を計画して実施している。ホームへの理解を深めたりより多くの参加を促すために、行事と組み合わせで開催することもある。	地域に開かれたサービスが展開できるような内容を取り入れたり、さらに活発な意見を出し合ってサービスの向上に活かせる会議となるような取り組みが望まれる。会議を職員研修の一環として捉え、職員が順次参加できる方法を取り入れることも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課担当者様には運営推進会議に参加願ったり理解困難事例の相談など必要に応じて行っている	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センターにホームから相談したり、新しい情報や課題解決のためのアドバイスをもらうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し実践している。拘束が本人をどんな気持ちにさせるか自分だったらどう思うか、話し合っ実践に生かしている。	
			(外部評価) 市社協主催のマンスリー講座を受講している。職員会でも常に確認し合い、「ひも・言葉・薬物」等による拘束をしないことを徹底している。玄関の施錠は防犯上夜間のみとし、自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合い事例を挙げてみんなの注意を喚起し実践に生かしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今のところ事例は無いが必要時は利用の相談をかけようと思っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時のあわただしいときを避け、事前または入所して落ち着いてから十分に説明し、また質問を受けて納得を得て行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者様のぽつんと発せられた言葉で実行可能なことならば、スタッフで話し合って実行に移している。また改善をしている。また直接率直なご意見を出していただいている。実行可能なことから、すぐできること時間はかかるが実行可能なことなど実行可能な期間のめどをお答えして、行っている。	
			(外部評価) 家族から出された意見や要望について、長期と短期に区別して速やかに対応している。管理者は、何でも話してもらえよう日々努めている。職員が普段は気づかないでいたことなど、貴重な意見を出してもらい、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映できる事、実現可能な改善点などはできるだけ早く実行に移し、みんなでチームで仕事を作っているという実感がわくように努力している。 (外部評価) 職員は、管理者に対しても意見を出しやすく、職員会も盛り上がる事が多い。管理者は、職員に積極的に話しかけて意見を引き出すよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。常に勤務に差し支えない程度研修の許可をいただいている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) その人の能力や経験などによって研修参加を進めている。オンザジョブトレーニングを取り入れている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) できるだけ参加を試みている。運営推進会へ参加させてもらっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込め安いい雰囲気づくりを心がけている。ご家族が認知症であることを認めたくない気持ちもあって、ご本人の心の姿が見えにくい事も多々ありご家族のプライドも配慮しながら、少しずつご本人の自然な姿、ご本人の気持ちを、気づいていただけるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに、見学をしていただきホームの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してできるだけ御本人の普段の姿を知るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞きホームで受け入れの出来る方かどうかをできる限り知るようにしている。また、他のサービスの可能性についても、お話させてもらっていますが、ほとんどの相談に見えられるケースは、ご本人が自宅ではこれ以上世話できないといったケースが多く見受けられます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本的に自立支援を行っているので、できるところは自分で出来ないところを支えて差し上げる援助姿勢で実践しています。職員とご利用者様との話し合いで進めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様の協力は必要時にはお願いする事は入所時にもご説明している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人がご家族に電話をしたり、ご家族の了解を得て会合への参加などもしてもらっている。ご家族とご一緒に外泊外出も届けていただいている。また面会時間も常識範囲内で自由だから面会者は非常に多い。 (外部評価) 家族、親族だけでなく、時には友人も訪ねて来ており、中には毎日来訪者がある方もいる。法事や結婚式などへの参加は、家族の協力を得ている。ホーム周辺出身の利用者が多く、環境の変化は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 中の良い人、悪い人、また人にちょっかいを出す人もある。あまり個人攻撃になるような事があれば様子を見ていて、職員が介入する。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族がご本人が退所された後、ご利用者を紹介してくれたりすることがある。ご見学や、入所のいかにには関わらずご相談の受け入れは行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食の嗜好、や生活の習慣などさまざまな点で、ご家族からの聞き取りや御本人のお話の中から汲み取って、できるだけ自由に、窮屈でない生活の仕方を個々にしてもらっている	
			(外部評価) 毎日の会話や行動から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を汲み取るよう努めている。信頼関係が深まっていく中で、利用者自身の過去のエピソード等印象的なことを語ってもらっており、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけ御本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、その人らしい考え方や、行動をとうして、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行っている。申送り、連携によって、知った情報を、みんなで共有し、御本人の状態を、できるだけ正確に、把握できるよう努めてい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ケアマネ、リーダー、スタッフで協働連携しチームアプローチを推進している。介護計画、個別援助目標を上げ、1カ月おきにスタッフでモニタリングを行い、それぞれの意見を出し合って、援助の方針の継続をしたり、新しい課題の克服の為に、目標を掲げたりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の思いを把握した上で計画に盛り込み、職員間で話し合っって介護計画を作成している。計画の具体策を個別支援目標に掲げ、一日の流れに沿って援助内容を考え支援につなげている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 行っている。また経験の浅いスタッフには例を挙げて、記録の仕方を教えている。御本人の発せられた言葉を、そのまま記録したり、見た事感動した事を記録したりなど、記録を共有する事で、その人の援助に生かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 行っている。とらわれない感性を大切にしています。スタッフが一人ひとりの個性で生活し支える支援の方向を目指しています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気です支援しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 普段の受診に関しては、協力体制にある西田クリニッ クを受診していますが、特別に、ご本人が指定される 主治医があればご希望どおり受診介助のお手伝いもし ています。</p> <p>(外部評価) 認知症の専門医である法人の医療機関をかかりつけ医 としている利用者が多いが、歯科、眼科、皮膚科等専 門医への受診対応も可能である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 行っている。クリニックのナース、ホームのナース、 介護スタッフとの連携で、ご利用者様の体調変化につ いて常に情報の交換をして、体調管理に努めていま す。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 行っている。ご希望があれば相談に乗ってご利用者様 ご家族様に選択をしてもらっての援助を行っている。 もちろん入院などは主治医からの情報、介護現場 からの情報提供もしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化に対応できるように、西田クリニックとの連携 で医療連携しお看取りまでの対応を行っている。入所 時や、時期に応じて主治医西田DR、ケアマネ、ご家 族との話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りの経験は多く、運営者及び管理者も自信をも って取り組んでいる。利用開始時に本人及び家族に説明 して希望を確認し、どのような形で最期を迎えるの か、そのためにどのような対応をしていくのかについ て、運営者にも相談しながら検討し、方針を共有して いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員ではないが行っている。随時訓練を行う予定である。現在は報告、連絡、相談をすばやく行いホームのナース、クリニックのナース主治医まですばやく連絡が取れる体制をとっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練、年2回。消防講習者2名おり、常に事故を未然に防ぐよう注意を払っている。また毎日の申送り時に、議題として取り上げ、全員の防火、防災の意識喚起に努めている。立地条件的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 防災訓練は年2回、昼・夜を想定して行っており、避難場所等も確認している。建物自体もオール電化で火災予防に配慮しており、平成22年秋にはスプリンクラーを設置する予定である。	緊急連絡網を使った訓練の再確認が望まれる。また、運営推進会議で防災について話し合い、地域の協力も得ながら一緒に訓練を行う等、より実践的で高いレベルの訓練を継続することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしている。利用者様が入所が長くなって親しみから、失礼の無いように言葉使い姓名の呼び方など、親しみを持って、折り目正しい、対応呼びかけ方を再確認し合っている。 (外部評価) 管理者は、人格の尊重やプライバシー確保について、理念と関連づけながら全職員に説明しており、職員は言葉かけや態度に十分配慮し、居室への入室時は必ずノックや声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉にはならないご利用者様の意思の表出を見逃さないように、御本人の意思決定を支援できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。法外の、希望はともかく、御本人の意思で日常の行動は決定し生活されている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。自分の行きつけのある人は外出の楽しみもかね職員と出かけられている。服も自由に着替えている。季節を感じられるように声掛けも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お手伝いをする人、しない人自分の仕事だと思っている人さまざまだが、基本的に自由に参加し、無理はしない。 (外部評価) 料理の本を参考にしたり、利用者の嗜好に合わせて献立を検討しており、季節やイベントも取り入れている。下ごしらえ、配膳・下膳、後片づけ等できる人ができる時に楽しく手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態もその人によって体調に合わせて違う。また栄養は目安の献立表を使用している。食事の時間も大まかに決めているが、その日の体調気分で自由である。一日の摂取水分量は常に総計を出し、水分の摂取不足にならないように気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 行っている。出来る人は自分で行い。できない人は職員が口腔ケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレ介助にて排泄をしてもらっている。重度な人が多くなって車椅子でトイレ誘導する人も多くなっている。	
			(外部評価) 職員は、可能な限りトイレで排泄してもらえよう声かけや誘導をして、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。できるだけ身体を動かしてもらえようように、歩行訓練、散歩、ラジオ体操など行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴を行い、御本人の意志で入浴をしてもらっている。午前、午後を問わず行っている。法外な希望は話し合いをして職員の見守りができる時間内に行っている。	
			(外部評価) 週に2～3回の入浴を基本にしているが、希望すれば毎日の入浴にも対応している。自由にシャワー浴を楽しむ方もいる。機械浴の設備もあるが、現在は2人体制での介助で心地良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的に日課は無く、自由に自分の意思で自由に自分の時間を過ごしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている症状や状態については常に申し送りし、こまめに確認援助している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なので自分のしたいこと自分の好きな人と自由に過ごしている。外出のレクリエーションについても、希望によって行うので大人数での企画は、行わない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族さんにも協力をしてもらって、できるだけ自由に外出してもらっている。近所への買い物介助なども行っている。	
			(外部評価) 苺狩りやぶどう狩りなど季節ごとの行事で遠路出かけたり、近くのデパート、同ビル1階のコンビニエンスストア、近所の商店街等へ買い物に出かけており、利用者にとっては外出が気分転換にもなっている。堀端までアヒルの餌やりに出かけるのが日課になっている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金契約によって小額のお金を預かってご本人が必要時にお渡しし使ってもらえるようにしています。また1,000~2,000の範囲でご自分で財布に持ってもらえることで、意識をしっかり持ってもらえるのに役立っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に自分がかきたいときに電話してもらってご家族に気持ちを伝えてもらっています。手紙も自由に出しに言ってもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) お城下の理念のとおり、よい匂い、よい肌触り、よい音、おいしい料理、よい環境(居心地よい環境)を理解し、きちんと掃除してにおいがこもらないように、きちんと洗濯ができて、清潔に、はじめある言葉使い（やさしい言葉使いで）でおだやかな雰囲気、熱いものはあたたかく、冷たいものは冷たく、手づくりの料理で、安全で、おだやかなホームの雰囲気を常に心がけて実践しています。</p> <p>(外部評価) 玄関口にはボランティアによる生花が毎週美しく活けられ、季節を感じさせてくれる。洗面台、風呂、トイレ等は清潔で掃除が行き届いている。トイレは利用者にもわかりやすいよう青色の戸で統一するなど、暮らしやすい工夫がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや椅子の配置、席替えを行うなどくふうをしています。自分たちで住みわけを上手にされています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの品をもってこられたり自分が必要なときは戸を開められたり、開放したり、自由に行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりがテレビ・冷蔵庫・写真・仏壇・生花など馴染みの物を持ち込み、ほっと安心できる空間をつくっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 行っている。すべて自由選択であるから、できることはしていただき、できないところを援助するよう心がけている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓蟄会
事業所名	グループホームお城下
所在地	松山市千舟町4丁目4番5 西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成21年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 10月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームアプローチ、報告、連絡、相談をす早く行い、ご利用者様の要求や、変化にす早く対応をすること。また、そのためにチームの全員が、気持ちよく働けるよう、コミュニケーションを取ること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じビル内にホームと同法人の運営する認知症専門病院があり、連携体制が整っている。看取りの経験が多いため職員の力量は高く、利用者及び家族は安心している。作成した介護計画を、個別援助目標や援助内容へと展開しながらケアに活かしている。明るく誠実な管理者を中心に、個性豊かな職員が、年齢差はあっても尊重し合いながら仲良く助け合ってケアにあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) かめユニット

記入者(管理者)

氏名 福島真理

評価完了日 H21 年 10 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入所系でありながら在宅の考え方で支援の継続性について随時話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 管理者の思いがこもった5つの理念は利用者や家族にも分かりやすく、職員は日々のケアを通して理念の実践に努めている。職員は、利用者が今まで築き上げた生活が心地良く自由にできるよう見守り支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 番町公民会活動への参加や、地域のお店へ出かけたり、とできるだけの交流に努めているが地域的に地元住人がどこにいるのかわからず苦心している</p> <p>(外部評価) 町内会に加入している。秋祭りでは子ども神輿がホームの中まで来てくれ、子どもたちとの交流を利用者も楽しみにしている。家族の協力を得て松山祭りの踊りを一緒に見学したり、公民館や小学校の催しにも参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域的に難しい点はあるが出来る範囲で交流を試みている。また同じビル内にあるコンビニエンスストアの人たちには買い物に行く事によって、認知症の方のことも少しずつ受け入れてもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議と行事との組み合わせで参加の促進を図 り、ホームの活動を目の当たりにしていただき、サー ビスについてのご意見も出している。	地域に開かれたサービスが展開できるような内容を取り 入れたり、さらに活発な意見を出し合ってサービスの 向上に活かせる会議となるような取り組みが望まれ る。会議を職員研修の一環として捉え、職員が順次参 加できる方法を取り入れることも期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、町内会長、民生委員、 市担当者などの出席を得て、学習会等を計画して実施 している。ホームへの理解を深めたりより多くの参加 を促すために、行事と組み合わせて開催することもある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課担当者様には運営推進会議に参加願ったり 理解困難事例の相談など必要に応じて行っている	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センターにホームから相談し たり、新しい情報や課題解決のためのアドバイスをも らうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し実践している。拘束が本人をどんな気持ちにさ せるか自分だったらどう思うか、話し合って実践に生 かしている。	
			(外部評価) 市社協主催のマンスリー講座を受講している。職員会 でも常に確認し合い、「ひも・言葉・薬物」等による拘 束をしないことを徹底している。玄関の施錠は防犯上 夜間のみとし、自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合い事例を挙げてみんなの注意を喚起し実践に生かしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に利用されている利用者さんがいる。活用できていると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時のあわただしいときを避け、事前または入所して落ち着いてから十分に説明し、また質問を受けて納得を得て行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者様のぽつんと発せられた言葉で実行可能なことならば、スタッフで話し合っって実行に移している。また改善をしている。また直接率直なご意見を出していただいている。実行可能なことから、すぐできること時間はかかるが実行可能なことなど実行可能な期間のめどをお答えして、行っている。	
			(外部評価) 家族から出された意見や要望について、長期と短期に区別して速やかに対応している。管理者は、何でも話してもらえよう日々努めている。職員が普段は気づかないでいたことなど、貴重な意見を出してもらい、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映できる事、実現可能な改善点などはできるだけ早く実行に移し、みんなでチームで仕事を作っているという実感がわくように努力している。 (外部評価) 職員は、管理者に対しても意見を出しやすく、職員会も盛り上がる事が多い。管理者は、職員に積極的に話しかけて意見を引き出すよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。常に勤務に差し支えない程度研修の許可をいただいている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) その人の能力や経験などによって研修参加を進めている。オンザジョブトレーニングを取り入れている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) できるだけ参加を試みている。運営推進会へ参加させてもらっている。またお招きし輪を広げている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込め安いい雰囲気づくりを心がけている。ご家族が認知症であることを認めたくない気持ちもあって、ご本人の心の姿が見えにくい事も多々ありご家族のプライドも配慮しながら、少しずつご本人の自然な姿、ご本人の気持ちを、気づいていただけるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに、見学をしていただきホームの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してできるだけ御本人の普段の姿を知るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞きホームで受け入れの出来る方かどうかをできる限り知るようにしている。また、他のサービスの可能性についても、お話させてもらっていますが、ほとんどの相談に見えられるケースは、ご本人を自宅ではこれ以上世話できないといったケースが多く見受けられます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本的に自立支援を行っているので、できるところは自分で出来ないところを支えて差上げる援助姿勢で実践しています。職員とご利用者様との話し合いで進めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様の協力は必要時にはお願いする事は入所時にもご説明している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人がご家族に電話をしたり、ご家族の了解を得て会合への参加などもしてもらっている。ご家族と一緒に外泊外出も届けていただいている。また面会時間も常識範囲内で自由だから面会者は非常に多い。 (外部評価) 家族、親族だけでなく、時には友人も訪ねて来ており、中には毎日来訪者がある方もいる。法事や結婚式などへの参加は、家族の協力を得ている。ホーム周辺出身の利用者が多く、環境の変化は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と同じ席で安心されて過ごされているように伺える。あまり個人攻撃になるような事があれば様子を見ていて、職員が介入する。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族がご本人が退所された後、ご利用者を紹介してくれたりすることがある。ご見学や、入所のいかにには関わらずご相談の受け入れは行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食の嗜好、や生活の習慣などさまざまな点で、ご家族からの聞き取りや御本人のお話の中から汲み取って、できるだけ自由に、窮屈でない生活の仕方を個々にしてもらっている。	
			(外部評価) 毎日の会話や行動から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を汲み取るよう努めている。信頼関係が深まっていく中で、利用者自身の過去のエピソード等印象的なことを語ってもらっており、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけ御本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、その人らしい考え方や、行動をとうして、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行っている。申送り、連携によって、知った情報を、みんなで共有し、御本人の状態を、できるだけ正確に、把握できるよう努めてい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、リーダー、スタッフで協働連携しチームアプローチを推進している。介護計画、個別援助目標を上げ、1カ月おきにスタッフでモニタリングを行い、それぞれの意見を出し合って、援助の方針の継続をしたり、新しい課題の克服の為の、目標を掲げたりしている。 (外部評価) 利用者や家族の思いを把握した上で計画に盛り込み、職員間で話し合っって介護計画を作成している。計画の具体策を個別支援目標に掲げ、一日の流れに沿って援助内容を考え支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。また経験の浅いスタッフには例を挙げて、記録の仕方を教えている。御本人の発せられた言葉を、そのまま記録したり、見た事感動した事を記録したりなど、記録を共有する事で、その人の援助に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。とらわれない感性を大切にしています。スタッフが一人ひとりの個性で生活し支える支援の方向を目指しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>普段の受診に関しては、協力体制にある西田クリニッ クを受診していますが、特別に、ご本人が指定される 主治医があればご希望どおり受診介助のお手伝いもし ています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>認知症の専門医である法人の医療機関をかかりつけ医 としている利用者が多いが、歯科、眼科、皮膚科等専 門医への受診対応も可能である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>行っている。クリニックのナース、ホームのナース、 介護スタッフとの連携で、ご利用者様の体調変化につ いて常に情報の交換をして、体調管理に努めていま す。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>行っている。ご希望があれば相談に乗ってご利用者様 ご家族様に選択をしてもらっての援助を行っている。 もちろん入院などの際は主治医からの情報、介護現場 からの情報提供もしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化に対応できるように、西田クリニックとの連携 で医療連携しお看取りまでの対応を行っている。入所 時や、時期に応じて主治医西田DR、ケアマネ、ご家 族との話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの経験は多く、運営者及び管理者も自信をも って取り組んでいる。利用開始時に本人及び家族に説明 して希望を確認し、どのような形で最期を迎えるの か、そのためにどのような対応をしていくのかについ て、運営者にも相談しながら検討し、方針を共有して いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員ではないが行っている。随時訓練を行う予定である。現在は報告、連絡、相談をすばやく行いホームのナース、クリニックのナース主治医まですばやく連絡が取れる体制をとっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練、年2回。消防講習者2名おり、常に事故を未然に防ぐよう注意を払っている。また毎日の申送り時に、議題として取り上げ、全員の防火、防災の意識喚起に努めている。立地条件的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 防災訓練は年2回、昼・夜を想定して行っており、避難場所等も確認している。建物自体もオール電化で火災予防に配慮しており、平成22年秋にはスプリンクラーを設置する予定である。	緊急連絡網を使った訓練の再確認が望まれる。また、運営推進会議で防災について話し合い、地域の協力も得ながら一緒に訓練を行う等、より実践的で高いレベルの訓練を継続することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしている。利用者様が入所が長くなって親しみから、失礼の無いように言葉使い姓名の呼び方など、親しみを持って、折り目正しい、対応呼びかけ方を再確認し合っている。 (外部評価) 管理者は、人格の尊重やプライバシー確保について、理念と関連づけながら全職員に説明しており、職員は言葉かけや態度に十分配慮し、居室への入室時は必ずノックや声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉にはならないご利用者様の意思の表出を見逃さないように、御本人の意思決定を支援できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。法外の、希望はともかく、御本人の意思で日常の行動は決定し生活されている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。自分の行きつけのある人は外出の楽しみもかね職員と出かけられている。服も自由に着替えている。季節を感じられるように声掛けも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お手伝いをする人、しない人自分の仕事だと思っている人さまざまだが、基本的に自由に参加し、無理はしない。時間の制限はしない。	
			(外部評価) 料理の本を参考にしたり、利用者の嗜好に合わせて献立を検討しており、季節やイベントも取り入れている。下ごしらえ、配膳・下膳、後片づけ等できる人ができる時に楽しく手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態もその人によって体調に合わせて違う。また栄養は目安の献立表を使用している。食事の時間も大まかに決めているが、その日の体調気分で自由である。一日の摂取水分量は常に総計を出し、水分の摂取不足にならないように気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 行っている。出来る人は自分で行い。できない人は職員が口腔ケアしている。誤嚥の可能性のある方は、特に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレ介助にて排泄をしてもらっている。重度な人が多くなって車椅子でトイレ誘導する人も多くなっている。	
			(外部評価) 職員は、可能な限りトイレで排泄してもらえよう声かけや誘導をして、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。できるだけ身体を動かしてもらえようように、歩行訓練、散歩、ラジオ体操など行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴を行い、御本人の意志で入浴をしてもらっている。午前、午後を問わず行っている。法外な希望は話し合いをして職員の見守りができる時間内に行っている。	
			(外部評価) 週に2～3回の入浴を基本にしているが、希望すれば毎日の入浴にも対応している。自由にシャワー浴を楽しむ方もいる。機械浴の設備もあるが、現在は2人体制での介助で心地良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的に日課は無く、自由に自分の意思で自由に自分の時間を過ごしてもらっている。眠る場所も御本人の自由意志で決める。無理に居室への誘導はしていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている症状や状態については常に申し送りし、こまめに確認援助している。服薬はその方の身体状況に応じて、粉碎したり、練って服薬介助したり工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なので自分のしたいこと自分の好きな人と自由に過ごしている。外出のレクリエーションについても、希望によって行うので大人数での企画は、行わない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族さんにも協力をしてもらって、できるだけ自由に外出してもらっている。近所への買い物介助なども行っている。	
			(外部評価) 母狩りやぶどう狩りなど季節ごとの行事で遠路出かけたたり、近くのデパート、同ビル1階のコンビニエンスストア、近所の商店街等へ買い物に出かけており、利用者にとっては外出が気分転換にもなっている。堀端までアヒルの餌やりに出かけるのが日課になっている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金契約によって小額のお金を預かってご本人が必要時にお渡しし使ってもらうようにしています。また1,000~2,000の範囲でご自分で財布に持ってもらうことで、意識をしっかりと持ってもらうのに役立っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に自分がかけたいときに電話してもらってご家族に気持を伝えてもらっています。手紙も自由に出しに言ってもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) お城下の理念のとおり、よい匂い、よい肌触り、よい音、おいしい料理、よい環境(居心地よい環境)を理解し、きちんと掃除してにおいがこもらないように、きちんと洗濯ができて、清潔に、けじめある言葉使い（やさしい言葉使いで）でおだやかな雰囲気、熱いものはあたたかく、冷たいものは冷たく、手づくりの料理で、安全で、おだやかなホームの雰囲気を常に心がけて実践しています。</p> <p>(外部評価) 玄関口にはボランティアによる生花が毎週美しく活けられ、季節を感じさせてくれる。洗面台、風呂、トイレ等は清潔で掃除が行き届いている。トイレは利用者にもわかりやすいよう青色の戸で統一するなど、暮らしやすい工夫がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや椅子の配置、席替えを行うなどくふうをしています。自分たちで住みわけを上手にされています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの品をもってこられたり自分が必要なときは戸を閉められたり、開放したり、自由に行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりがテレビ・冷蔵庫・写真・仏壇・生花など馴染みの物を持ち込み、ほっと安心できる空間をつくっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 行っている。すべて自由選択であるから、できることはしていただき、できないところを援助するよう心がけている。</p>	